

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 28 年 7 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 7 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,111 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲4.3%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,983 円（伸び率▲3.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,511 億円（伸び率▲0.9%）、薬剤料が 4,590 億円（伸び率▲5.3%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 691 億円（伸び率 0.1%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤料種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,582 円	2.77 種類	23.6 日	85 円
伸び率（%）	▲4.8	▲0.8	+0.8	▲4.9

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,797 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲228 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 830 億円（伸び幅▲113 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 66 億円（総額 302 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,797 億円 （▲228 億円）	21 循環器官用薬 （830 億円）	11 中枢神経系用薬 （639 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（526 億円）
0 歳以上 5 歳未満	35.8 億円 （▲0.6 億円）	44 アレルギー用薬 （15.2 億円）	61 抗生物質製剤 （9.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （5.1 億円）
5 歳以上 15 歳未満	77.4 億円 （▲3.7 億円）	44 アレルギー用薬 （31.9 億円）	11 中枢神経系用薬 （15.3 億円）	61 抗生物質製剤 （11.3 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,328 億円 （▲55 億円）	11 中枢神経系用薬 （276 億円）	21 循環器官用薬 （253 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（195 億円）
65 歳以上 75 歳未満	966 億円 （▲72 億円）	21 循環器官用薬 （251 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（156 億円）	11 中枢神経系用薬 （111 億円）
75 歳以上	1,393 億円 （▲97 億円）	21 循環器官用薬 （323 億円）	11 中枢神経系用薬 （236 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（171 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,983 円（伸び率▲3.4%）で、最も高かったのは京都府（10,851 円（伸び率▲3.6%））、最も低かったのは福岡県（7,827 円（伸び率▲4.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは群馬県（伸び率 0.0%）、最も低かったのは香川県（伸び率▲7.7%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】691 億円（伸び率：0.1%、伸び幅：1 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	65.8%	+7.6%
薬剤料ベース	15.1%	+0.8%
後発品調剤率	65.8%	+4.3%
（参考）数量ベース（旧指標）	44.0%	+4.7%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.1%	+19.6% （0 歳以上 5 歳未満）	▲8.3% （70 歳以上 75 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.1%	16.1% （75 歳以上）	9.8% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	612 億円 （▲3 億円）	21 循環器官用薬 （175 億円）	23 消化器官用薬 （107 億円）	11 中枢神経系用薬 （72 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.7 億円 （+1.1 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.2 億円）	61 抗生物質製剤 （1.4 億円）	44 アレルギー用薬 （1.2 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.8 億円 （+1.0 億円）	44 アレルギー用薬 （4.0 億円）	61 抗生物質製剤 （2.4 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	200 億円 （▲3 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	11 中枢神経系用薬 （31 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）
65 歳以上 75 歳未満	158 億円 （▲5 億円）	21 循環器官用薬 （57 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	239 億円 （+3 億円）	21 循環器官用薬 （68 億円）	23 消化器官用薬 （49 億円）	11 中枢神経系用薬 （31 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,016 円	1,387 円（岩手県）	847 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.0%	+4.6%（福島県）	▲2.8%（石川県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	65.8%	77.5%（沖縄県）	56.0%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.1%	19.4%（鹿児島県）	12.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.8%	76.6%（沖縄県）	59.0%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	44.0%	54.8%（沖縄県）	37.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 7 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。